

JAIMA/日本生物工学会 共働 ピッチ・ネットワーキング



生物学と分析産業の間で 「変革の種を見つける交流会」

発酵の科学における日本の技術と産業は、歴史的に見ても世界的ポテンシャルを有しています。JAIMAでは、発酵学からスタートした日本生物工学会とのアライアンス企画を推進してきましたが、JASIS2024では「変革の種を見つける交流会」を共働のピッチ・ネットワーキングとして開催いたします。本企画の構成は、プレゼンテーション(前半)と交流会(後半)からなり、4名のピッチャー講演と交流会でのより深い共働可能性を討議できる場を提供します。

2024年9月5日(木) 18:00~20:00 アパホテル幕張1F / 事前登録制

ピッチ・プレゼンテーションプログラム (18:00-19:00)

分析機器工業会 (JAIMA) 会員企業2社、および日本生物工学会会員2名より、新開発技術・製品や研究内容等につき10分のショートプレゼンテーションを行います。

18:00	多様化する自動化へのヒント:プロセスの柔軟性と固定化の事例から ★異分野での成功事例を見ていただき、ライフサイエンスでの応用の可能性を探します。	ヤマト科学(株) 若杉 健朗氏 イーエムアール(株) 塩田 晃久氏
18:15	超微量生体試料からの定量的マルチオミクス解析への挑戦 ★1細胞試料から代謝物やタンパク質を定量的に観測できる時代が来ました。一緒に新たな研究をやりませんか? 九州大学 生体防御医学研究所 附属高深度オミクスサイエンスセンター メタボロミクス分野 和泉 自泰先生	
18:30	MAXS/EDT: 溶液中の抗体分子やウイルスベクター類の直接分子像観察 ★原理的には、前情報無しで「見え」ます!10kDa-数百MDaまで。応用例、募集中。	株式会社リガク 佐藤 孝氏
18:45	バイオものづくりプロセス開発におけるデータ取得・保管・解析・活用について ★「培養がメチャ楽に!! みんなに知ってほしい」	大阪工業大学工学部生命工学科 生物プロセス工学研究室 長森 英二先生

パートナリング交流会 (19:00-20:00)

*プレゼンテーション終了後、講演者のテーブルを用意し、さらに詳細な議論等の交流が出来切るように会場をセット。名刺交換も自由。
*ドリンク・軽食は、パーティー形式で準備

日時	: 2024年9月5日(木) 18:00~20:00	申込み切	: 8月30日(金) (50名に到達次第締切)
場所	: 会場/アパホテル幕張1F TKP東京ベイ幕張ホール コッツウォルズ	お問合せ	: (一社)日本分析機器工業会 JASIS委員会事務局 担当:谷島 yajima@jaima.or.jp
定員	: 事前登録制・先着50名限定	主催	: (一社)日本分析機器工業会 技術委員会 LS小委員会
参加料	: ¥5,000(飲食付き *税込)		: JASIS委員会 主催者企画小委員会

申込方法: 専用の申し込みサイト (URL)より申し込み <https://peatix.com/event/4031168/>

ピッチ・プレゼンテーションプログラム (18:00-19:00)

多様化する自動化へのヒント:プロセスの柔軟性と固定化の事例から

講演者 18:00~



ヤマト科学(株) 若杉健朗氏
イーエムアール(株) 塩田晃久氏

概要

製造や研究の現場で、自動化のニーズはますます高まっています。しかし、自動化と一口に言っても、その目的や規模は多岐にわたります。そこで今回は、プロセスの組換えが必要となる柔軟な自動化と、プロセスが固定された自動化の両面を取り上げ、具体的な事例を紹介し、異分野での事例を紹介することで、皆様に新たな視点とインスピレーションを提供いたします。

ピッチャー提言

異分野での成功事例を見ていただき、ライフサイエンスでの応用の可能性を探します。

超微量生体試料からの定量的マルチオミクス解析への挑戦

講演者 18:15~



九州大学 生体防御医学研究所
附属高深度オミクスサイエンスセンター
メタボロミクス分野
和泉自泰先生

概要

個々の細胞機能を理解するために、①ライブセルイメージング、②1細胞サンプリング・前処理自動化技術、③1細胞プロテオーム・メタボローム定量分析法、を融合させた「1細胞定量マルチ分子フェノタイプ解析技術」を世界に先駆けて開発することに成功しました。本発表では、本解析システムの詳細を紹介するとともに新たな活用方法などについて議論させて頂きたい。

ピッチャー提言

1細胞試料から代謝物やタンパク質を定量的に観測できる時代が来ました。一緒に新たな研究をやりませんか?

MAXS/EDT: 溶液中の抗体分子やウイルスベクター類の直接分子像観察

講演者 18:30~



株式会社リガク
佐藤 孝氏

概要

中角領域X線溶液散乱像は、分子内ドメイン距離や二次構造間距離といった溶液中の分子構造、及びコンフォメーション変化を解析するための重要情報を含んでいる。我々は、これらの情報を利用し、溶液中の生体高分子の電子密度を、直接投影する電子密度トポグラフィ法(MAXS/EDT)、及び、これを、あたかも顕微鏡観察の如く実行可能とする装置の開発を進めている。本手法は、主に抗体医薬品、ウイルスベクター等のバイオ医薬品の新モダリティ開発に有用と考えるが、その他多くの生物工学研究での活用が期待される故、その可能性のヒントを応用分野産業面から得たい。

ピッチャー提言

原理的には、前情報無しで「見え」ます!10kDa-数百MDaまで。応用例、募集中。

バイオものづくりプロセス開発におけるデータ取得・保管・解析・活用について

講演者 18:45~



大阪工業大学工学部生命工学科
生物プロセス工学研究室
長森英二先生

概要

バイオものづくりプロセス開発において、どのように機器データや分析が取得され、解析、活用されているのか、その流れを説明し、自動化やDX化が求められる部分について述べたい。培養データの保管、解析、知識活用を支援するDXアプリを開発しており、その概要を紹介したい。

ピッチャー提言

「培養がメチャ楽に!! みんなに知ってほしい」